

2026年8月1日

幼保連携型認定こども園 西神戸 YMCA 保育園 8月えんだより

8月聖句：「平和な人には未来がある。」 <詩編37章37節>

連日、厳しい暑さが続いています。ニュースでは「例年にない暑さ」や「局地的な豪雨」といった言葉が毎日のように聞かれます。私たちが暮らす地球はこれからどうなっていくのだろうかと考えさせられます。今を生きる私たちだけでなく、これからの時代を受け継いでいく子どもたち、さらにその先の世代へと続いていく未来を思わずにはいられません。

そんな暑い毎日ですが、園では水遊びを楽しむ子どもたちの元気な声が響いています。水鉄砲を手に友だちと楽しむ子もいれば、小さな容器に水を汲んでは別の容器へ移し替えることを何度も繰り返している子もいます。同じ場所で同じ水に触れていても、興味をもつことや楽しみ方は一人ひとり異なります。しかし、そのどちらも子どもたちにとって大切な遊びであり、その子らしい成長の姿です。

子どもたちは遊びを通して、自ら動き出し、試し、感じ、考えています。目で見て、耳で聞き、手で触れながら、自分を取り巻く世界を五感で受け止めていきます。「子どもの仕事は遊び」と言われるように、遊びは子どもたちの心や身体、感性を育てる大切な営みです。

また、子どもたちは遊びの中で、自分とは違う友だちにも出会います。気持ちがぴったり合って意気投合することもあるけれど、思い通りにならずにつぶかることもあります。同じものを見ても感じ方は違い、同じ出来事でも考え方は異なります。時にはその違いに戸惑ったり、相手の気持ちが分からず葛藤したりすることもあります。しかし、その経験こそが子どもたちの成長にとって大切な学びとなります。

保育園は、ただ仲良く遊ぶ場所ではなく、自分とは違う相手と出会い、その存在を知り、関わりながら共に育っていく場所でもあります。私たち大人もまた、子どもたちの姿を通して、一人ひとりに個性があり、感じ方や考え方、育ちのペースにも違いがあることを改めて教えられます。その違いは決して間違いではなく、それぞれに大切な姿です。お互いを認め合い、許し、許され、結果的に「お互いさま」の心で受け止めようとする中で、子どもたちは安心して成長していきます。

今月の聖句には、「平和な人には未来がある」とあります。平和とは、争いがない状態だけではなく、自分と異なる人の存在を認め、その違いを受け止めながら共に生きていこうとすることでもあるのではないのでしょうか。価値観や文化、考え方の違いを超えて、お互いを尊重し合う力こそが、平和な社会をつくる原動力になるように思います。

子どもたちは今、保育園という小さな社会の中で、人との違いに出会い、時にはぶつかり合いながら、その違いを受け止めることを学んでいます。それは決して遠回りではなく、未来へつながる大切な経験です。この8月も、子どもたち一人ひとりの育ちを大切に見守りながら、私たち大人もまた、違いを認め合い、共に生きる平和の心を大切に過ごしていきたいと思います。

年主題：「しゅイエスとともに」

年主題聖句：「主があなたと共におられる。」（ルカによる福音書1章28節）

8月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	ゆっくりね／ゆるやかに	平和を祈りあう
月の願い	- まわりの人に愛され、神さまにまもられていることを感じる - 暑さの中、家族や保育者とゆったりとした時間を過ごす - 夏ならではの身近な変化を五感で感じる - 家族や保育者、友だちとゆるやかに過ごし、心が満たされる - 夏の生活を五感で感じる	- 神さまに愛されている自分・家族・友だち・世界の人々が穏やかで平和であることを保育者とともに願い、祈る - 保育者に支えられながら、遊びの中でかじったこと、考えていることをことばで表し、伝える経験をする 海、森、入道雲、カブトムシなど暑い夏に生き生きする自然・命に触れて過ごす - イエスさまが私たちに平和を創り出すことを望んでおられることを知り、平和について祈り合う - 経験したことや感じたことを言葉や様々な方法で表現する - 暑い夏を健康で安全に過ごすことを意識して生活しようとする - ゆったりとした生活を送り、自然現象（夕立ち、台風、雷）や生き物など、自然の営みや命の大切さを知る
讃美歌	どんどこどんどこ こども改106	うみでおよぐ 幼児讃美歌23